

「medicina」第19巻 総目次

1982年 第1号～第13号

数字は通巻頁数，() 内は号数，12号は臨時増刊特集号です。

〔今月の主題〕

内分泌疾患—今日の知識 (1)

〈診断のすゝめ方〉

低身長	高野加寿恵	6
低血糖症	大根田 昭	8
鉍質コルチコイドによる		
高血圧	猿田 享男	10
褐色細胞腫	佐藤 辰男	12
クッシング症候群		
安田 圭吾・三浦 清	14	
SIADH	齊藤 寿一	20
高プロラクチン血症	山路 徹	22
原発性副甲状腺機能亢進症		
古川洋太郎	24	
副甲状腺機能低下症	多久和 陽	26
Bartter 症候群	藤田 敏郎	30

〈検査値の読み方〉

TRH 試験, LH-RH 試験		
齋藤 史郎	32	
甲状腺ホルモン	稲田 満夫	34
副腎皮質ホルモン	宮地 幸隆	36

〈境界領域〉

腺腫様甲状腺腫		
小原 孝男・藤本 吉秀	38	
腫瘍マーカーとしての		
ホルモン	阿部 薫	42
Transsphenoidal Microsurgery		
景山 直樹・桑山 明夫	44	
Gonadal Dysgenesis, Tubular		
Dysgenesis	久貝 信夫	46
Anorexia Nervosa	末松 弘行	48

〈治療〉

粘液水腫昏睡	小出 義信	50
バセドウ・クリーゼ	森 徹	52
抗甲状腺剤による無顆粒球症		
紫芝 良昌	54	
妊娠とバセドウ病	百溪 尚子	58

〈トピックス〉

ACTH 前駆体と γ -melanotropin		
(γ -MSH)	中井 義勝	61
出産後一過性甲状腺機能異常症	網野 信行	64
ホルモン作用とカルモデュリン	小出 義信	66
Malignant Hypercalcemia		
岡崎 具樹・尾形 悦郎	68	
Glucagonoma, Somatostatinoma, VIPoma		
山口 建・阿部 薫	72	

〈座談会〉

内分泌疾患の診療をめぐる		
長瀧 重信・宮井 潔		
福島 孝徳・尾形 悦郎	77	
今月の主題・理解のための10題		
長瀧 重信	92	

感染症と免疫 (2)

感染症の成立	秋山 武久	208
〈感染症の診断〉		
発熱の鑑別診断	町野龍一郎	210
病態スクリーニング検査の考え方	河合 忠	214
血清診断	伊藤 忠一	216
エンドトキシン検査		
河合 忠・田村 弘志	218	
好中球機能検査		
粕川 禮司・宮田 昌之	220	
〈非特異的防御機構〉		
オプソニンなどの血清因子		
大国 寿士	225	
インターフェロン	海老名卓三郎	228
NK 細胞	押味 和夫	230
食作用	安倍 千之	232
補体系	稲井 眞弥・赤垣 洋二	234
キニン系とその周辺		
恩田 昌彦・代田 明郎	236	
〈特異的防御機構〉		
細菌感染 見明 俊治・武谷 健二	238	
ウイルス感染	中尾 亨	240
粘膜の防御機構		
川名 林治・宮杜 牧人	242	
〈特殊な感染症〉		
Opportunistic Infection		
小酒井 望	244	
病巣感染としての習慣性アンギーナ		
斎藤 英雄・野田 寛	246	
感染アレルギー		
佐野 靖之・宮本 昭正	248	
Slow Virus Infection		
飛田 清毅	250	
慢性肉芽腫症		
松浦 良二・臼井 朋包	252	
なまけもの白血球症候群		
松浦 良二・臼井 朋包	254	
Chediak-Higashi 症候群		
赤羽 太郎	256	
〈感染症の予防と治療〉		
予防接種の現状	平山 宗宏	260
特異的 γ グロブリン製剤と適応	早川 浩	262
静注用 γ グロブリン製剤と適応	堀 誠	266
〈座談会〉		
感染症と免疫をめぐる		
南谷 幹夫・中尾 亨		
秋山 武久・河合 忠	271	
今月の主題・理解のための10題		
河合 忠	284	
リハビリテーションの現況 (3)		
最近のリハビリテーション		
をめぐる	佐々木智也	380
患者の評価法	大井 淑雄	382
〈治療法〉		

理学療法	谷岡 淳	394
運動療法と治療体操		
石田 暉・千野 直一	397	
ハリ治療	井上 和彦	402
薬物療法—筋弛緩剤について		
初山 泰弘	406	
心理療法	崎尾 英子・河合 洋	408
言語治療	柴田 貞雄	412
〈補助用具〉		
義肢と装具	武智 秀夫	414
車椅, 杖, 歩行器	加倉井周一	420
〈社会復帰〉		
作業療法	福田恵美子	427
社会復帰の実践	五味 重春	432
〈疾患とリハビリテーション〉		
脳卒中	福井 園彦	436
脊髄障害	岩倉 博光	438
慢性関節リウマチ	菅原 幸子	440
腰痛症	米本 恭三	444
末梢神経障害	伊地知正光	448
筋疾患	中瀬 浩史・杉田 秀夫	452
心筋梗塞	石神 重信	454
呼吸器疾患	木田 厚瑞	456
精神障害	比賀 晴美	460
〈症候とリハビリテーション〉		
排尿の障害	陣内 一保	464
血行障害と四肢切断	長尾 竜郎	468
視覚障害	中島 章・赤松 恒彦	472
聴覚障害	鈴木 淳一	476
〈座談会〉		
リハビリテーション最近の話題		
上田 敏・大川 嗣雄		
明石 謙・横山 巖		
大井 淑雄	479	
今月の主題・理解のための10題		
大井 淑雄	488	
狭心症とその周辺 (4)		
冠不全の概念		
村尾 覚・川久保 清	592	
冠循環の薬理	今井 昭一	594
冠スパズムとは		
延吉 正清・西村 健司	596	
〈狭心症の種類〉		
異型狭心症		
片桐 敬・新谷 博一	600	
不安定狭心症	木全 心一	602
安定狭心症の予後	加藤 和三	604
〈虚血性心臓病の診断〉		
狭心症の間診	太田 怜	610
心電図		
—Holter ECG モニターによるもの		
道場 信孝	612	
—運動負荷試験	杉下 靖郎	616
—虚血性心疾患にみられる脚ブロック		
岡田 了三	619	
—虚血性病変による不整脈		

外畑 巖・平田 幸夫 623	ST-T 偏位
金沢 知博・小野 幸彦 628	心エコー図一動的運動負荷
松崎 益徳・楠川 禮造 632	心筋シンチグラム
西川 潤一・飯尾 正宏 636	冠状動脈造影法
須磨 久善・鈴木 章夫 639	〈治療〉
虚血性心臓病の運動療法と食事指導	藤田 良範・長谷川武志 644
抗狭心症薬	鈴木 恵子・戸山 靖一 646
血小板凝集抑制剤の使い方	山崎 昇 648
AC バイパス手術の適応	伴 敏彦 651
バルーンカテーテルによる	冠動脈拡張術
山口 洋・細田 泰之 654	〈講義〉
狭心症と無痛性虚血性心臓病の	薬物治療
春見 建一・村田 和彦	太田 怜 661
今月の主題・理解のための10題	太田 怜 671
血清リポ蛋白の異常 (5)	血清脂質研究の動向 内藤 周幸 788
〈リポ蛋白と脂質の代謝〉	コレステロールとリポ蛋白代謝
秦 葭哉 790	トリグリセリドとリポ蛋白代謝
竹内 一郎 796	〈血清リポ蛋白異常症〉
高 chylomicron 血症と高	VLDL 血症 福井 巖 800
高 LDL 血症 中谷 矩章 804	家族性高コレステロール血症
馬淵 宏 806	Ⅲ型高脂血症 山内 喜夫 808
低 HDL 血症と低 LDL 血症	中井 継彦・笈田 耕治 810
LCAT 欠損症 加藤 泰一 814	〈リポ蛋白異常と各種疾患〉
胆石症 梶山 梧朗 816	脾炎 佐竹 克介 818
脂肪肝 古賀 俊逸・辻 裕二 820	肥満 丸浜 喜亮・引地 勲 822
糖尿病 赤沼 安夫 824	心筋梗塞 上田 正人 828
脳梗塞 村井 淳志 830	甲状腺機能低下症
加藤 督介・高林 洋一	伊藤 國彦 832
腎炎, ネフローゼ症候群	清水 隆 834
皮膚掻痒症	小澤 明・大城戸宗男 836
角膜老人環, 老人性白内障	沼尾智代子 838

〈カラーグラフ〉	目でみるリポ蛋白異常
一胆石, 黄色腫, 角膜老人環	梶山 梧朗・秦 葭哉 843
沼尾智代子	843
〈リポ蛋白をめぐるトピックス〉	癌とコレステロール 重松 洋 846
動脈硬化とプロスタグランディン	矢島 途好・沼野 藤夫 850
老化とコレステロール 武内 望 854	血栓と EPA 熊谷 朗 856
不整脈と遊離脂肪酸 山崎 昇 858	長寿と HDL コレステロール
板倉 弘重 862	脚気(様)症候群と過酸化脂質
木畑 正義 864	〈血清リポ蛋白代謝異常の治療〉
血清リポ蛋白異常の治療方針	山本 章 866
高 LDL 血症の治療法 葛谷 文男 868	高 VLDL 血症 (低 HDL 血症を含む) の治療法 南部 征喜 872
抗高脂血症剤と虚血性心疾患の	長期予防 都島 基夫 874
〈座談会〉	血清リポ蛋白一代謝と疾患
八杉 忠男・中谷 矩章	板倉 弘重・秦 葭哉 877
今月の主題・理解のための10題	秦 葭哉 891
癌治療の最前線 (6)	外科治療の進歩 末舛 恵一 996
放射線治療の進歩	橋本 省三・近藤 誠 998
〈化学療法〉	新抗腫瘍剤臨床研究の現況
小川 一誠 1002	ヌードマウスを用いた <i>in vivo</i>
抗腫瘍剤感受性テストの意義	久保田哲朗 1004
腫瘍の微小循環特性に基づいた	昇圧化学療法
涌井 昭・佐藤 春彦 1007	抗腫瘍剤の targeting
高橋 俊雄・山口 俊晴 1012	Transcatheter
Chemo-Embolization	神前 五郎・岡村 純 1014
〈免疫療法〉	癌免疫研究の現状 橋本 嘉幸 1016
インターフェロンの抗腫瘍性	雨貝 孝・岸田綱太郎 1018
monoclonal 抗体と癌治療	葛巻 暹 1022
monoclonal killer T cell	と癌治療 藤本 重義 1024
体液性免疫抑制因子の分析	漆崎 一朗 1026
癌治療と癌免疫能	西條 長宏 1030
〈トピックス〉	レーザー治療の適応と限界
早田 義博 1034	

Biological Response Modifiers	(BRM) の概念 塚越 茂 1036
全身 hyperthermia	山中 直樹・加藤 信夫 1038
局所 hyperthermia	柄川 順 1042
癌転移の抑制	螺良英郎・他 1044
癌治療の指標としての腫瘍マーカー	服部 信 1046
〈集学的治療〉	消化器癌 岡崎 伸生 1048
肺 癌 大熨 泰亮 1050	白血病 大野 竜三・山田 一正 1052
乳 癌 富永 健 1055	癌性心嚢炎 富永 慶昭・新海 哲 1058
〈座談会〉	癌治療の進歩—基礎から臨床へ
新田 和男・仁井谷久暢	中島 聡徳・西條 長宏 1061
今月の主題・理解のための10題	西條 長宏 1072
カルシウム代謝の基礎と臨床 (7)	カルシウムの生体内分布と
その生理的役割 内川 厚司 1180	骨の形態と代謝回転
(リモデリング) 林 泰史 1182	〈カルシウム代謝とその調節〉
骨とカルシウム代謝 白木 正孝 1184	腎とカルシウム代謝 吉田 政彦 1186
腸管とカルシウム 森内 幸子 1188	筋とカルシウム 小浜 一弘 1190
〈カルシウム代謝調節ホルモン〉	副甲状腺ホルモン
大田喜一郎・岡本 幸春 1192	カルチトニン 森本茂人・他 1196
ビタミンD 松本 俊夫 1198	〈臨床〉
血清カルシウム値の読み方	孫 孝義・古川洋太郎 1200
原発性副甲状腺機能亢進症	清水多恵子 1202
続発性副甲状腺機能亢進症	吉山 直樹 1204
副甲状腺機能低下症 岡野 一年 1206	偽性副甲状腺機能低下症
筒泉正春・他 1208	高カルシウム血症 (癌に伴うもの)
大畑 雅洋 1212	骨粗鬆症 中井瑞美子 1214
骨ページェット病 林 泰史 1216	骨軟化症 下辻 常介 1218
腎性骨異常栄養症 相澤純夫・他 1222	妊娠とカルシウム代謝 佐藤 和雄 1226
〈トピックス〉	癌とビタミンD
宮浦 千里・須田 立雄 1228	カルシウム拮抗薬
多田 道彦・門馬 正明 1230	カルシウム結合蛋白 奥 恒行 1232
〈座談会〉	カルシウム代謝のトピックス
富田 明夫・須田 立雄	

今井 昭一・折茂 肇 1235	今月の主題・理解のための10題
折茂 肇 1246	
実地医に必要な臨床検査のベース (8)	
〈座談会〉	
臨床検査にまつわる諸問題	
小酒井 望・河野 均也	
阿部 正和・河合 忠 1374	
* * *	
医療における臨床検査の役割	
阿部 正和 1386	
〈正しい採血〉	
抗凝固剤の使い方 河野 均也 1388	
採血部位 藤巻 道男・福武 勝幸 1392	
食事の影響	
村田健二郎・江川 宏 1394	
体位の影響 玄番 昭夫 1396	
保存・運搬の影響	
土屋 達行・土屋 俊夫 1400	
〈成績管理〉	
成績管理の必要性と問題点	
齊藤 正行 1402	
技術的精度管理の方法 佐々木禎一 1404	
日医精度管理調査の歩み	
藤沢 正輝・船山 玲子 1406	
管理された検査データと臨床	
竹内 和男 1410	
〈正常値〉	
集団正常値の分布型 久米 均 1412	
集団正常値の求め方と性格	
清瀬 闊 1414	
個人正常値と個人差 北村 元仕 1416	
臨床参考範囲とその意義	
臼井 敏明 1420	
〈生理的変動因子〉	
性 差 宮地 隆興 1422	
年 齢 大場 康寛 1426	
日差, 季節差 置塩 達郎 1428	
運 動 井川 幸雄 1430	
アルコール摂取 山崎晴一郎	
梶原 敬三・陣内 富男 1432	
喫 煙 浅野 牧茂 1436	
〈薬剤による影響〉	
薬剤と臨床検査 林 康之 1440	
尿検査への影響 林 康之 1444	
血液検査への影響 菅野 剛史 1446	
〈検査値の新しい利用法〉	
予測値, パニック値とは	
岡村 一博 1448	
計量診断への利用—プログラム	
パッケージ活用のために 古川 俊之 1450	
腎疾患診療のトピックス (9)	
腎炎の分類の変遷と最近の概念	
奈倉 勇爾・波多野道信 1550	
学童の腎疾患と検診 北川 照男 1554	
〈診 断〉	
CT 川村 寿一 1558	
超音波検査 川村 寿一 1564	
RI (レノグラム) 小磯 謙吉 1574	
腎生検—とくに IgA 腎症 大野 丞二 1577	
蛋白尿の分析	

大山 邦雄・本田 西男 1582	〈薬物療法〉
ステロイド療法 酒井 紀 1584	
免疫抑制剤	
長沢 俊彦・北本 清 1588	
抗凝固療法 東條 静夫 1590	
降圧薬, 利尿薬	
飯野 靖彦・椎貝 達夫 1592	
慢性腎不全に対する保存療法	
小出 桂三 1594	
〈透析療法〉	
腹膜透析 (CAPD) 石田裕一郎・他 1598	
重曹透析 高橋 健・越川 昭三 1602	
高 Na 透析 前田 憲志 1604	
透析の合併症と対策 丸茂 文昭 1608	
糖尿病性腎症	
原 茂子・三村 信英 1610	
膠原病による腎障害 詫摩 武英 1613	
〈その他の治療法〉	
血漿交換療法 雨宮 秀博 1616	
腎移植と術前輸血 落合 武徳 1618	
慢性腎不全に対する食事療法と管理	
阿部 裕・他 1620	
〈座談会〉	
腎疾患最近の話題	
酒井 糾・加藤 暎一	
東間 紘・広瀬 賢次	
杉野 信博 1623	
今月の主題・理解のための10題	
杉野 信博 1934	
自律神経失調症—心身症としての	
考え方・扱い方 (10)	
自律神経失調症の概念 阿部 達夫 1752	
〈自律神経失調症とは〉	
学童期および思春期にみられるもの	
岩波 文門 1754	
成熟期および更年期にみられるもの	
長谷川直義 1756	
老年期にみられるもの	
勝沼 英宇・他 1758	
〈類似疾患との鑑別〉	
めまい 山崎 可夫 1762	
頭 痛 安藤 一也 1764	
動悸・不整脈 菊池 長徳 1766	
全身倦怠 桂 戴作 1768	
腹痛・下痢 中川 哲也 1770	
性障害 河野 友信・玉井 一 1772	
不 眠 筒井 末春 1774	
登校拒否 阿部 忠良 1776	
抑うつ 森 温理 1778	
〈検査のすすめ方〉	
簡易検査法—身体面 山口 剛 1780	
簡易検査法—心理・社会面	
深町 建 1784	
専門的検査法 坪井 康次 1786	
〈薬物療法〉	
薬物治療の原則 中野 弘一 1788	
薬物療法の位置づけ 石川 中 1790	
循環器系症状に対して 篠田 知璋 1792	
消化器系症状に対して 川上 澄 1794	
神経・筋肉系症状に対して	
山中 隆夫・野添 新一 1796	

精神症状に対して 岩井 寛 1798	
〈心理療法〉	
一般医にできるもの 末松 弘行 1800	
交流分析 杉田 峰泰 1802	
〈予後と経過〉	
治療経過に悪影響を及ぼす因子	
樋口 正元 1804	
予 後 難波 経彦 1806	
予防的配慮 吾郷 晋浩 1808	
〈座談会〉	
心身症の現状と新しい動向	
石川 中・川上 澄	
樋口 正元・筒井 末春 1811	
今月の主題・理解のための10題	
筒井 末春 1822	
高血圧症—今日の知識 (11)	
最近の動向 池田 正男 1928	
〈成 因〉	
遺 伝 菊池 長徳 1930	
昇圧因子—ナトリウム 伊藤 敬一 1932	
—カテコラミン・交感神経系	
口井 正人・増山・善明 1934	
—レニン・アンジオテンシン系	
日和田邦男 1938	
降圧因子—カリクレイン・キニン・	
プロスタグランジン系	
久代登志男・梶原 長雄 1942	
神経因子	
—中枢神経系 (CNS) 道場 信孝 1944	
—調節反射機能 齊藤 俊弘 1946	
〈血行動態〉	
心 臓 竹下 彰 1948	
脳 畑 隆志・海老原進一郎 1950	
腎 臓 池田 寿雄・石井 當男 1952	
〈診断の進歩〉	
日内変動と家庭血圧	
柄久保 修・金子 好宏 1956	
高血圧重症度分類の今日的意義	
藤井 潤 1960	
低レニン性高血圧と原発性	
アルドステロン症 福地 總逸 1962	
血中カテコラミン測定法と	
その問題点 安達眞樹・他 1964	
〈高血圧症と画像診断〉	
心エコー 村松 準・上嶋 十郎 1948	
CT 増田 善昭 1974	
〈治 療〉	
降圧剤の選び方	
西尾 一郎・増山 善明 1976	
境界型高血圧は治療すべきか	
梶原長雄・他 1979	
老年性高血圧	
村田 和彦・市川 秀一 1982	
悪性高血圧 尾前 照雄 1984	
高血圧性緊急症 露崎 輝夫 1986	
β 遮断剤 河野 和記・荒川規矩男 1990	
α 遮断剤, α - β 遮断剤	
東海林哲郎・飯村 攻 1992	
Ca 拮抗薬	
佐藤 孝一・青木 久三 1994	
レニン・アンジオテンシン系阻害薬	
荻原 俊男・熊原 雄一 1998	

中枢性降圧剤	
降圧薬の副作用	木村 忍・三浦 幸雄 2000
高血圧患者の管理	武田 忠直 2002
中村 仁 2004	
〈座談会〉	
本態性高血圧症の治療をめぐって	
中村 仁・海老原昭夫	
猿田 享男・稲垣 義明 2007	
今月の主題・理解のための10題	
稲垣 義明 2020	
内科医に必要な泌尿器科の知識 (13)	
泌尿器科最近の動向	石神 裏次 2470
〈内科的徴候〉	
不明熱	阿曾 佳郎・田島 惇 2472
消化器症状	友吉 唯夫 2476
腰・腹部痛	大堀 勉 2478
高血圧	池上 奎一 2482
〈泌尿器科的徴候〉	
肉眼的血尿	
松田 稔・園田 孝夫 2484	
尿混濁	大井 好忠 2486
排尿困難	三木 誠 2488
尿閉と無尿	田崎 寛 2490
頻尿	坂本 公孝 2492
尿失禁	土田 正義・森田 隆 2496
インポテンツ	長田 尚夫 2500
〈検査法の知識〉	
分腎機能検査法	川村 寿一 2502
前立腺触診	千野 一郎 2508
X線検査	
多田 信平・加藤 仁成 2512	
膀胱機能検査	小柳 知彦 2518
〈救急処置〉	
導尿	江藤 耕作 2520
膀胱穿刺	津川 龍三 2522
留置カテーテル法とその管理	
熊澤 淨一 2524	
〈治療とその考え方〉	
膀胱炎症状	小川 秋実 2526
尿路感染症	名出 頼男 2528
前立腺炎	河村 信夫 2530
尿路結石の治療と予防	高崎 悦司 2532
老人の排尿障害	小柴 健 2534
〈座談会〉	
内科医に必要な泌尿器科の知識	
岡本 重禮・吉田 修	
服部 孝道・町田 豊平 2537	
今月の主題・理解のための10題	
町田 豊平 2546	
今月の焦点	
神経因性膀胱の新しいとらえ方	
安田 耕作・服部 孝道 (1) 122	
プロスタグランディンの臨床的意義	
鹿取 信・塩川 優一 (2) 315	
Therapeutic Drug Monitoring	
の必要性和その意義	
石崎 高志・河合 忠 (3) 508	
Oncology とは何か	
北原 光夫・片山 勲 (4) 706	
痴呆の臨床をめぐって	

長谷川和夫・東儀 英夫 (5) 920	
コンピュータで広がる医療	
土肥 一郎・三宅 浩之	
開原 成允・浅原 朗	
坂部 長正 (6) 1102	
脳の左右差—どこまでわかっているか	
杉下 守弘・岩田 誠 (8) 1480	
性病の現況と新しい考え方	
小野田洋一・岡本 昭二 (9) 1668	
ツベルクリン反応の新しい応用	
一免疫機能の簡便な指標として	
泉 孝英・桂 義元 (11) 2025	
遺伝子工学—その基礎と臨床応用	
へのポテンシャル	
井川・洋二・河合 忠 (13) 2582	

特別企画：非ホジキンリンパ腫の

分類と治療

非ホジキンリンパ腫の分類

片山 勲 (7) 1351

非ホジキンリンパ腫の治療

北原 光夫 (7) 1358

カラーグラフ：臨床医のための

腎生検—糸球体病変／坂口 弘

1. 正常の糸球体と微小変化 (1) 98
2. 膜性糸球体腎炎 (腎症) (2) 288
3. メサングウム増殖性糸球体腎炎 (3) 492
4. 膜性増殖性糸球体腎炎 (4) 680
5. 膜性増殖性糸球体腎炎 type II (5) 896
6. 管内増殖性糸球体腎炎 (6) 1076
7. 半月体性糸球体腎炎, 管内管外性糸球体腎炎 (7) 1252
8. IgA 腎症 (8) 1454
9. ループス腎炎 (9) 1638
10. 糖尿病性糸球体硬化症 (10) 1828
11. アミロイドーシス (11) 2024
12. 巣状病変 (13) 2554

演習：目でみるトレーニング

- 高橋 和郎, 馬杉 洋三
瀧野辰郎・他, 小林 直紀
河合 健 (1) 101
- 片山 勲・他, 遠藤 光夫
北原 光夫, 村松 準 (2) 291
- 小林 直紀, 馬杉 洋三
片山 勲・他, 廣瀬 和彦
村松 準 (3) 495
- 高橋 和郎, 朝田 康夫
遠藤 光夫, 村松 準
重広世紀子 (4) 683
- 北原 光夫, 飯高和成・他
重広世紀子・他, 村松 準・他
(5) 900
- 飯高和成・他, 奥野忠雄・他
村松 準・他 (6) 1080
- 片山 勲・他, 村松 準・他
(7) 1256
- 藤本 吉秀, 真柴 裕人

村松 準・他 (8) 1458	
村松 準・他, 藤本 吉秀	
真柴 裕人, 吉川 純一	
植川和利・他, 加藤 陽一 (9) 1642	
吉川 純一, 北原 光夫	
浜野 恭一, 高守 正治	
村松 準・他 (10) 1831	
井上 清・他, 坪川 孝志	
植川和利・他, 村松 準・他	
浜野 恭一 (11) 2027	
高木 康行, 戸田行雄・他	
青木 正和, 井上 清・他 (13) 2557	

画像診断

心臓の CT／太田 怜・林 建男

1. 正常 CT 像 (1) 108
2. 心房の拡張 (2) 298
3. 弁の石灰化 (3) 502
4. 心室瘤 (4) 690
5. 大血管の変化 (5) 906
6. 大動脈炎症候群 (6) 1086
7. 心膜炎 (7) 1262
8. 濃度増強法 (8) 1464
9. 心室瘤 (II) (9) 1650
10. 心筋症 (10) 1838
11. 心腔内血栓 (11) 2034
12. 動脈瘤 (13) 2564

画像診断と臨床

婦人科疾患 (2) —卵巣腫瘍

森本 紀・多田 信平
川上 憲司 (1) 113

縦隔腫瘍

小林 進・福田 国彦
川上 憲司 (2) 303

休載

心大血管 (I)

小林 進・福田 国彦
川上 憲司 (4) 697

同 上 (II)

中山 陽・多田 信平
川上 憲司 (5) 911

肺疾患 (I) —肺癌

中山 陽・多田 信平
川上 憲司 (6) 1093

心大血管 (III)

鈴木 茂・原田 潤太
川上 憲司 (7) 1267

同 上 (IV)

鈴木 茂・原田 潤太
川上 憲司 (8) 1467

脳腫瘍

田口 芳雄・木野 雅夫
川上 憲司 (9) 1657

脳血管障害

田口 芳雄・木野 雅夫
川上 憲司 (10) 1847

肺疾患 (III)

山田 治男・多田 信平
川上 憲司 (11) 2041

高血圧症

山田 治男・多田 信平
川上 憲司 (13) 2573

講座

図解病態のしくみ 消化器疾患／松枝 啓

23. Parenteral & Enteral Nutrition
(2) Protein Calorie Malnutrition (1) 137
24. 同 上(3)―同 上(その2) (2) 331
25. 同 上(4)―必要カロリー量・蛋白
質量の算出法と合理的治療法の選択 (3) 523
26. 同 上(5)―Protein-Sparing
Therapy (4) 719
- 休 載 (5)
27. Parenteral & Enteral Nutrition
(6)―Peripheral Parenteral
Nutrition (6) 1119
28. 同 上(7)―Central Parenteral
Nutrition (7) 1279
- 休 載 (8)
29. Parenteral & Enteral Nutrition
(8)―Enteral Hyperalimentation (1)
(9) 1685
30. 同 上(9)―同 上(2) (10) 1859
31. 同 上(10)―同 上(3) (11) 2083
32. 同 上(11)―同 上(4) (13) 2615

図解病態のしくみ 臓器循環／須永 俊明

1. 冠循環
一解剖, 生理, 病態生理のまとめ (1) 145
2. 脳循環
一解剖, 生理, 病態のまとめ (2) 337
3. 腎循環
解剖, 生理, 病態生理のまとめ (3) 529
4. 肺循環
一解剖, 生理, 病態のまとめ (4) 729
- 休 載 (5)
5. 肝循環
一解剖, 生理, 病態のまとめ (6) 1127
6. 胃・腸管の循環
一解剖, 生理, 病態生理のまとめ (7) 1287
7. 四肢末梢循環
一皮膚・筋の循環のまとめ (8) 1493

臨床薬理学 薬物療法の考え方／中野 重行

10. 臨床薬効評価(2) (1) 153
- 休 載 (2)
11. 臨床薬効評価(3) (3) 537
- 休 載 (4)
- 休 載 (5)
- 休 載 (6)
12. 臨床薬効評価の問題点 (7) 1301
13. 腎機能障害時の
薬物投与法(1) (8) 1501
- 休 載 (9)
14. 腎機能障害時の薬物
投与法(2) (10) 1865
- 休 載 (11)
15. 腎機能障害時の薬物
投与法(3) (13) 2597

異常値の出るメカニズム 酵素検査／

- 玄番 昭夫
45. γ-グルタミントランスペプ
チダーゼ (γ-GTP) (1) 161
46. 血清酸ホスファターゼ (2) 349
47. 血清コリンエステラーゼ (3) 543

48. 血清5'-ヌクレオチダーゼ (4) 735
49. 血清アミラーゼ (5) 931
50. 血清 LAP と CAP (6) 1133
51. 血清 α-ヒドロキシ酪酸
脱水素酵素 (HBD) (7) 1293
52. 血清リパーゼ (8) 1509
53. 血漿リポ蛋白リパーゼ
と LCAT (9) 1693
54. 血清モノアミンオキシ
ダーゼ (MAO) (10) 1875
55. 血清アルドラーゼと
イソクエン酸脱水素酵素
(IGD) (11) 2071
56. 血清 OCT とグルタミン酸
脱水素酵素 (GLDH) (13) 2603

コンピュータの使い方

1. 歴史と現況, コンピュータ
へのアクセス
坂部 長正・開原 成允 (7) 1309
2. 医事業務システム
一医療料金計算と保険請求
三宅 浩之 (8) 1515
3. 病院管理, オフィス・オート
メーション 三宅 浩之 (9) 1701
4. 病歴管理におけるコンピュータ
の利用 坂部 長正 (10) 1881
5. 統計解析 土肥 一郎 (11) 2077
6. 情報検索 開原 成允 (13) 2614

外来診療・ここが聞きたい

- 急速進行性を思わせる慢性糸球体腎炎
杉野 信博・村山 正昭 (1) 182
- 尿路感染をくり返す片側尿管拡張
杉野 信博・村山 正昭 (2) 370
- 自律神経障害が考えられる不整脈例
井上 清・村山 正昭 (3) 568
- 大動脈弁置換術後, 頭痛と顔面
麻痺のある例
井上 清・村山 正昭 (4) 740
- 結核の既往がある肺機能不全例の管理
岡安 大仁・村山 正昭 (5) 940
- 慢性気管支炎に併発する喘息の薬物療
法 岡安 大仁・村山 正昭 (6) 1116
- 高血圧のあるパーキンソン病の例
大友 英一・村山 正昭 (7) 1318
- 糖尿病に合併した末梢神経障害の例
大友 英一・村山 正昭 (8) 1524
- 高齢発症の慢性関節リウマチの外来治
療 塩川 優一・村山 正昭 (9) 1708
- リウマチ熱の考え方・扱い方
塩川 優一・村山 正昭 (10) 1908
- 小児の急性虫垂炎のプライマリ・ケア
牧野 永城・村山 正昭 (11) 2094
- 末期癌患者の在宅医療
牧野 永城・村山 正昭 (13) 2624

診療基本手技

- 輸液量と点滴速度との関係
高尾 信廣 (1) 175
- 直腸指診のポイント
西崎 統 (2) 312
- 点滴セットを用いた腹水採取法

- 藤田 善幸 (3) 401
- 中心静脈カテーテルの挿入法
高尾 信廣 (4) 608
- 中心静脈カテーテルの管理
高尾 信廣 (5) 938
- 大伏在静脈カットダウン
高尾 信廣 (6) 1140
- 尿道カテーテルの挿入法
高尾 信廣・西崎 統 (7) 1316
- 留置尿道カテーテルの管理
高尾 信廣・西崎 統 (8) 1522
- 経口的気管内挿管
吉岡 成人・西崎 統 (9) 1706
- Sengstaken-Blakemore tube
(S-B 管) の挿入法と管理
高尾 信廣・西崎 統 (10) 1888
- 動脈血ガス分析の手技と要点
吉岡 成人・西崎 統 (11) 2092
- 骨髄穿刺のコツと注意点
吉岡 成人・西崎 統 (13) 2622

米国家庭医学の発展／木村 隆徳

1. 家庭医の訓練はお粗末か
一米国家庭医学専門医の診療の実態
(9) 1682
2. 家庭医学は GP への逆行か
一家庭医と一般医の相違 (10) 1904
3. 家庭医学はなぜ必要か
一家庭医学の信憑性 (11) 2112
4. プライマリ・ケアの普及をなにか
阻害しているか
一GP レジデンス失敗の教訓
(13) 2634

CPC

- 高血圧症, 右片麻痺で入院, 高レニン
血症, 著明な蛋白尿を呈し, 諸種の
治療に抗し, 消化管穿孔等を併発し
て死亡された30歳の男性
吉田 象二・鈴木 良一
浅田 学・唐沢 秀治
長尾 孝一・熊谷 朗
伊良部徳次・高橋 力
奥田 邦雄・近藤洋一郎
橋本 博史・安 徳純
諸橋 芳夫・重松 秀一
斎木 茂樹・秋草文四郎 (1) 189
- 52歳時より慢性関節リウマチを罹り,
咳嗽, 息切れ, 微熱を主訴として入
院した61歳男性の例
諸橋 芳夫・斎藤 陽久
山口 一・浅田 学
鈴木 良一・安達 元郎
登 政和・石井 志博
今井 賢二・吉田 象二
塚本 俊彦・住田 孝之
関 保雄・吉沢 照
野辺地篤郎・本間 日臣
熊谷 朗・斎木 茂樹
山中 晃 (3) 573
- 6年前より肺結核の治療を受け, やが
て下肢浮腫, 身体の違和感などを訴

えて来た58歳男の例

桜井 幸弘・伊藤 隆志
中山 大典・酒井 文和
井上 寛一・河本 和行
桜林 耐・五味 朋子
亀谷 寛・佐多徹太郎
黒沢 崇四・池田 隆夫
土谷 春仁・三室 淳
伊藤 慎芳・石河 利隆
池上 文昭 (5) 974

下壁梗塞に完全房室ブロック、心不全
を合併し、急性期に死亡した56歳女
性の例

角田 興一・鏡味 勝
高橋 正志・小方 信二
稲垣 義明・鈴木 勝
小川 芳信・金子 重夫
住田 孝之・斎木 茂樹
竹内 信輝 (7) 1325

上腹部痛、黄疸、無尿を主訴とし、発
症から10日ほどで死亡した63歳男性
の例

藤田 道夫・小高 通夫
浅田 学・安達 元郎
野水 眞・登 政和
吉田 象二・奥田 邦雄
小方 信二・中村 和之
長尾 孝一・村上 信乃
近藤洋一郎・井出源四郎
佐藤 勝則・松崎 理
伊良部徳次 (9) 1729

人工妊娠中絶後下血が持続し、その後
突然頭痛・嘔吐、意識消失した28歳
主婦の例

佐藤 勝則・奥田 邦雄
大谷 彰・村上 信乃
近藤洋一郎・小方 信二
安 徳純・安達 元郎
押尾 好浩・石毛 英男
富田 伸・吉沢 照
熱田 英雄・針原 康
長尾 孝一・登 政和 (10) 1911

第166回呼吸器臨床談話会

Coin lesion の鑑別診断をめぐる

北村 諭・森成 元
岡安 大仁・岩井 和郎
杉山幸比古・田中 元一
芳賀 敏彦・細川 芳文
鈴木 光・谷合 哲
巽 浩一郎・工藤 翔二
鈴木 俊雄・和泉 孝志
和頼 房代・林 隆司郎
白木のい子・松井 泰夫 (4) 744

がん免疫振興財団シンポジウム「末期患 者に対する積極的治療」から

(その1) 癌免疫療法の現状
西條 長宏 (5) 963
(その2) 癌の内分泌療法の現状
一乳癌を中心に 熊岡 爽一 (6) 1160
(その3) 末期癌患者の取り扱い方

筒井 末春 (6) 1164
(その4) 癌末期の疼痛除去について
村山 良介 (6) 1170

特別掲載

日本におけるバイオフィードバック
研究—治療と教育に関して
平井 久 (13) 2637

VIA AIR MAIL

木戸 友幸 (1) 178
木戸 友幸 (2) 364
木戸 友幸 (3) 562
芦澤 哲夫 (4) 762
芦澤 哲夫 (5) 958
福原 俊一 (6) 1152
休 載 (7)
福原 俊一 (8) 1534
福原 俊一 (9) 1722
福井 次矢 (10) 1900
福井 次矢 (11) 2108
福井 次矢 (13) 2630

天地人

武士の情 天 (1) 169
嘘かまことか 聖 (2) 355
論議の真贋 越 (3) 551
203高地 天 (4) 767
エリーゼは、いま 聖 (5) 947
女性と肩書き 越 (6) 1143
スキんシップ 天 (7) 1339
借金考 天 (8) 1529
印刀さばき 聖 (9) 1713
わが身をツネって人の痛さを知れ 光 (10) 1891
漢語雑感 月 (11) 2099
兎 (ウサギ) 雑感 猫 (13) 2629

オスラー博士の生涯／日野原重明・他

102. 科学のパン種 (その1)
—ペンシルバニア大学のウィスター解
剖・生物学研究所開所式での講演
(1894年) (1) 170
103. 同 上 (その2) (2) 356
104. 結束 平和、ならびに協調
—メリーランド州内科外科医師会の総
会での告別講演 (1905年) (3) 552
105. 古き人文学と新しき科学(その1)
—1919年5月、オクスフォードでの古
典協会の会長講演 (4) 768
106. 同 上 (その2) (5) 948
107. プラトンが描いた医術と医師
(その1)—1898年 Johns Hopkins
病院医史クラブ例会にて (6) 1144
108. 同 上 (その2) (7) 1340
109. 結びの言葉 L'Envoi (1905年)
(8) 1530
110. トマス・ブラウン卿 (その1)
人物について—1905年10月12日ロンド
ン市 Guy's Hospital の Physical
Society での講演 (9) 1714
111. 同 上 (その2) 著書「医師の信仰」

および (その3) 評伝 (10) 1892
112(最終回) ウィリアム・オスラー博
士の著述とオスラーに関する文献
(11) 2100

ECHO

(4) 780
(5) 988
(6) 1071
(7) 1367
(8) 1542
(9) 1681

表紙の解説

甲状腺髄様癌 藤本 吉秀 (1) 2
Chediak-Higashi 症候群における
白血球の特徴ある封入体
赤羽 太郎 (2) 205
サイベックスによる等運動性訓練
大井 淑雄 (3) 382
タリウム心筋シンチグラム
太田 怜 (4) 589
純コレステロール結石
二川 俊二 (5) 785
ヒト胃癌株を担癌したヌードマウス
河村 栄二・久保田哲朗 (6) 993
Photon absorption method
折茂 肇 (7) 1177
赤血球凝集像のいろいろ
河合 忠 (8) 1371
尿沈渣所見のいろいろ
杉野 信博 (9) 1547
箱庭療法 筒井 末春 (10) 1749
手持用電気式血圧計
栃久 保修 (11) 1925
死をみとる中世の医師
町田 豊平 (13) 2467